



平成27年6月3日

第25回世界博物館大会の開催地の決定について

2019年（平成31年）秋に開催される「第25回世界博物館大会」の開催地が日本の京都市に決定されましたので、お知らせします。

（概要）

現地時間6月3日（水）（日本時間 同日）、フランス（パリ）で開催されているICOM（国際博物館会議）の諮問委員会は、2019年（平成31年）秋に開催される予定の第25回世界博物館大会の開催地決定のための投票結果を発表し、日本の京都市を開催都市に決定しました。なお、1948年の第1回大会以来、日本では初の開催となります。

世界博物館大会、開催地決定等の詳細につきましては、別添のICOM日本委員会のプレスリリースをご参照ください。

（参考）

世界博物館大会は、ICOMが3年に一度、加盟国において開催する世界大会であり、約1週間に渡り、全体総会、基調講演、シンポジウム、各分科会（主開催都市以外の都市でも開催予定）、国内の博物館施設の視察が行われます。世界各国から約3,000人の博物館専門家の参加が見込まれ、博物館を中心とする文化イベントとして大きな成果が期待されます。

＜担当＞

文部科学省生涯学習政策局社会教育課

課長補佐 高橋 陵子（内線 2968）

博物館振興係長 為近 雄一郎（内線 2093）

電話：03-5253-4111（代表）

03-6734-2093（直通）

第25回世界博物館大会 開催地の決定について

本6月3日、フランス・パリで開催されているICOM(国際博物館会議)の諮問委員会は、2019年(平成31年)の第25回世界博物館大会の開催地決定のための投票結果を発表し、日本の京都市が開催都市に決定した。投票は、117ヶ国の国内委員会や30の国際委員会の委員長等、100人によって行われ、日本は72票を獲得し、対立候補のアメリカ合衆国シンシナティ市(26票)を上回った。(棄権2)

ICOM日本委員会(委員長:青木保)は、ICOM世界大会の開催が、日本の博物館全体の国際化を促し、その振興に寄与するものとして、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの前年に開催される第25回の世界大会を京都市に招致すべく、京都市、京都府、文部科学省、文化庁、外務省、観光庁等の支援の下に積極的に取り組んできたところであり、本決定は、博物館を中心とする文化イベントとして大きな成果が期待される。



■国際博物館会議(ICOM)とは？

正式名称は International Council of Museums。世界137の国及び地域から博物館の専門職員約3万人が会員として参加している。本部事務局はフランスのパリにあって、博物館職員のための職業倫理規程の制定や、自然災害や武力紛争で被災した博物館の情報収集などを行っているほか、専門分野別に組織された約30の国際委員会があり、それぞれに国際会議や研究集会を実施している。

■世界博物館大会(ICOM大会)について

3年に1度の開催で、直近の第23回大会は2013年8月にブラジル・リオデジャネイロで開催され、世界103ヶ国から約2千人の博物館関係者が参加した。次回は2016年7月にイタリア・ミラノで開催される。ICOM日本委員会では、この世界博物館大会の日本招致について検討を重ねて、ミラノの次となる2019年の第25回大会を京都で開催すべく、2014年10月に正式に立候補し、準備を進めてきた。

■ICOM日本委員会について

ICOMにおいて、国別に組織されている117の National Committees (国内委員会)の1つが、ICOM日本委員会。ICOM規約に従い、その目的達成を図ると共に、国内における会員の諸活動の向上に資する事を目的として、1951年に設立された。事務局は公益財団法人日本博物館協会に置かれている。現在の委員長は青木保(元文化庁長官、国立新美術館館長)が務めている。

本件に関するお問い合わせ先：

東京都千代田区霞が関3-3-1 尚友会館 ICOM日本委員会事務局(担当：下田・守井)
TEL 03-3591-7190/ Email icom@j-muse.or.jp